



和の風第二十章の開催にあたって ～和の風の思い～

真壁のひなまつり和の風第二十章のポスターは流し雛の場面です。小さかった女の子たちも大人へと成長しました。真壁のひなまつりは始まった年(2003年)から子どもたちの成長を祈り、「和の風流し雛」を続けてきました。そよそよと吹き始めた和の風も子どもたちの成長とともに大きくなりました。

振り返ると色んなことがありました。21軒で始まったひなまつりも、章を重ねるたびに町の皆さんが次々とお雛様を飾り、真壁は一足早い春の彩りにつまれました。また、たくさんの方々にお越しいただき町は和やかに賑わいました。

でも、真壁は観光地ではありません。駐車場やトイレが不足するなどお越しただいた皆さんにはご迷惑をおかけすることもありました。また、賑わいとともに商いを優先する人たちも見られるようになり、ひなまつりの雰囲気も少しずつ変わりました。

このような中、第九章(2011年)の直後、東日本大震災により町が被災し、ひなまつりの開催も危ぶられました。町の皆さん、真壁を支えていただいた皆さんのおかげにより、中止することなく第十章を開催することができました。そして震災後、町並みが少しずつ再生する中、ひなまつりも第十八章(2020年)まで章を重ねましたが、2021年、2022年は新型コロナウイルス感染症拡大を受け2年連続での中止、また、第十九章(2023年)は規模縮小での開催となりました。

本当に色んなことがありましたが、町の皆さん、そして、真壁のひなまつりを楽しまにしている皆さんに支えられ、今回、記念となる和の風第二十章を迎えることができました。高齢化等によりお雛様を飾る軒数は年々減りつつありますが、真壁のひなまつりの原点である「おもてなし」を大切にしていけば、これからも章を重ねることができると信じています。

「寒い中、真壁に来てくれた人をもてなそう」
和の風につつまれた真壁にて、皆さんに「真壁に来てよかった」と感じていただけたら幸いです。